

## 地域協議会の模様



九州地区（平成25年3月4日）



近畿・北陸地区（平成25年3月5日）



中国・四国地区（平成25年3月26日）



協議事項	主な協議結果等
<p>②被ばく医療機関</p>	<p>○避難、搬送可能人数の基準  福島でも無理な避難、搬送計画のために60人が亡くなりました。一日で避難、搬送可能な人数の基準や目安があれば計画がたてやすい。原子力災害対策指針や防災計画マニュアルなどに具体的な基準として明確に記載されるよう要望してほしい。</p> <p>○他自治体との連携  今後の大きな検討課題の一つと思われる。特に立地県においては、ぜひ積極的に他自治体との連携の音頭を取っていただきたい。</p> <p>○被ばく医療機関独自の研修  病院内独自の研修は、ちょっとハードルが高いとのこと。院内独自で実施するとなると設定の仕方なども含め難しい。広島大学に対応のバックアップをお願いしたい。</p> <p>○汚染患者の受入  4割が汚染患者を受け入れると回答があったが、5割近くが逆に受け入れないという回答結果となった。受け入れないと回答があった病院も専門家の助言があれば、その半分以上が受け入れるということで、専門家を擁する三次被ばく医療機関の役割が問われている。</p> <p>○放射線測定機器  初期および二次被ばく医療機関がそれぞれ持つべき機器の種類、台数などの基準を明確にしてほしいとの要望あり。それにより不足分を整備することにより被ばく医療機関間の統一化が図れる。</p>
<p>2. 各府県の被ばく医療体制の現状について</p>	<p>国が作っている地域防災計画のマニュアルをもとに年度末に地域防災計画を改定する予定。この中で検討事項とされている安定ヨウ素剤の事前配布についても具体的なあり方について今後検討していく予定。被ばく医療全体に関しては、ネットワーク検討会等を開催し、情報共有や意見交換を行う。</p>

協議事項	主な協議結果等
<p>2. 各府県の被ばく医療体制の現状について</p>	<p>今後は、原子力災害対策指針のパブリックコメントへの国の回答に指針の今後の改定や補足参考資料作成等のコメントがあったのでそういったものも踏まえながら検討していきたいと考えている。</p> <p>地域防災計画については 30km 圏の見直しという事で昨年に改定をしたが、その後、行動計画として県の緊急被ばく医療マニュアルの見直しを今年度末を目途に暫定版という形で進めている。安定ヨウ素剤の配布についても具体的な配布方法等については、来年度改めてマニュアルの見直しをする予定。県の原子力防災訓練を行い、今回初めて 30km 圏の圏外への避難という事で対象市を増やした。訓練で被ばく医療の対応手順等の確認をしたが、今回初めて参加した方々は被ばく医療の知識そのものがまだ十分ではないという事で今後は資機材の整備と併せて人材育成として、研修会への参加等を増やしていきたいと考えている。</p> <p>また、被ばく医療体制の見直しという事で初期被ばく医療機関の追加の指定を検討している。30km 圏外の医療機関を中心に数ヶ所追加する方向で調整を進めている。</p> <p>現在、地域防災計画を見直しているが、初期被ばく医療機関に関しては元々本県では指定しておらず、原則、避難先となる市町に 1ヶ所ずつ設置する救護所で対応することになっており、必要な資機材は、その救護所を主管している保健所に配置するようにしている。それに伴い、スクリーニングや健康管理に従事する人が増えるので関係保健所の職員や災害拠点病院、DMAT 指定病院等に要請したいと考えている。新たな二次被ばく医療機関の指定は考えておらず関係保健所には除染テント等を配布する。ホールボディカウンターの搭載車を 1 台整備する予定だが、配置場所については検討中。</p> <p>今年度から隣接県になったため、現在手探り状態で国の指針に基づき、緊急被ばく医療マニュアルを作成している。災害拠点病院が多数あるので、そういった医療機関を二次被ばく医療機関に指定するため検討している。</p>

協議事項	主な協議結果等
<p>3. 三次被ばく医療機関からの緊急被ばく医療派遣体制について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原発事故が発災した際、立地県に専門家は派遣されるが隣接県にも派遣してもらえるのか。(広島大学は可能な限り対応する。それでも不足する場合は、このネットワークを通じて他県の専門家にも協力いただくなど考えたい。人材も育ててきているので。)</li> <li>○現場近くで対応する立場とすれば、有事の際はオフサイトセンターからでも助言をいただければ心強い。</li> <li>○派遣した場合、どのような形で現地の先生方とコミュニケーションをとればよいかは県が音頭をとることがスムーズであると思われる。このようなシミュレーションを取り入れた原子力防災訓練をやるのも良いかもしれない。</li> <li>○施設内事故は、従来どおりこれまで整備してきた三次被ばく医療体制に則り、県から広島大学への連絡ルートがあることを理解していただき、実際には直接伺うことになる</li> <li>○これまで検討してきた専門家派遣のための移動手段、ルートについては、今後も検証を重ねながらより良い方法を探っていきたいと考えているので引き続き調整に協力願いたい。</li> </ul>
<p>4. 広島大学への要望について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規二次被ばく医療機関独自のオリジナル研修を25年度以降実施を考えているので三次被ばく医療機関として協力願いたい。</li> <li>○被ばく医療機関での訓練のシナリオ作りや講習会など企画段階から協力願いたい。 (人材養成、機能向上に関しては、協力させていただく)</li> </ul>
<p>5. その他</p>	<p>[広島大学]</p> <p>地域協議会の目的の1つは、各自治体や被ばく医療機関の関係者が一同に集まり、お互いの顔が見える関係を作っていくことである。</p> <p>それによって、より円滑なネットワークが構築できると考えているので、今後も是非このような場を活用し、広域にわたる被ばく医療、災害医療対応ということで各自治体の協力関係を作っていただきたい。</p>

## 第4章 まとめ

以上が平成24年度に取り組んだ調査の報告であるが、主要な点について、今後の課題と取り組み等を含め、次のとおりまとめた。

大規模災害が発生した場合に被ばく医療活動が実効的に機能する体制構築に向け自治体の現状や意向を確認するためのアンケート調査を実施した。また、体制構築を考えれば各自治体の被ばく医療機関の現状や意向も必要なことから被ばく医療機関にも調査に協力いただいた。実施時期が新たな原子力災害対策指針が示される前ということで自治体や被ばく医療機関もすべてにおいて見直しを検討している状況の中での回答ということが言える。そのことを踏まえれば、今後1年おきくらいの継続した調査で拡充や減退を確認していくことは重要である考える。これは、ぜひ提案しておきたい。

被ばく医療専門家委員会では、前述のアンケート調査の内容や項目の検討、集計結果からの意見やまとめについて議論した。放射線医学の専門家や被ばく医療機関の医師、自治体の地域医療担当者にも委員に加わっていただき、有意義な議論の場となった。それぞれの立場からいろいろな調査項目が出され、また毎回熱心な議論となった。DMATの原子力災害派遣について、他自治体からの患者受入が難しいこと、他府県へは専門家は派遣できないが、自府県には専門家を要請すること、他府県との共同作業の検討、各自治体としての専門家の育成、汚染患者を受入れたあとの入院後の取扱いについて統一した指針も必要であること、など調査結果から見えてくるものがある。

24年度は新たな原子力災害対策指針において示されたUPZ30kmとして、西日本ブロックに新規隣接県が5県（富山県、岐阜県、滋賀県、山口県、福岡県）増えた。この5県に対し、これまで整備してきた西日本ブロック三次被ばく医療体制について説明するとともに、従来の立地隣接11府県と同様の被ばく医療体制構築のため協力に向けての事情聴取を行った。

地域協議会では、今年度取り組んだことの情報共有を図り、アンケート調査の集計結果、各自治体の被ばく医療体制の現状、三次被ばく医療機関からの緊急被ばく医療派遣体制、広島大学への要望など協議した。アンケート調査の結果から次の要望があった。初期および二次被ばく医療機関がそれぞれ持つべき機器の種類、台数などの基準を明確にしてほしいとの要望があった。また、福島でも無理な避難、搬送計画のために多くの方が亡くなられたが一日で避難、搬送可能な人数の基準や目安があれば計画がたてやすい。原子力災害対策指針や防災計画マニュアルなどに具体的な基準として明確に記載されるよう要望があった。

三次被ばく医療機関からの緊急被ばく医療派遣体制については、広島大学への要望と重なる部分もあるが立地県に専門家は派遣されるが隣接県にも派遣してもらえるのか、広島大学として可能な限り対応することを約束した。また、このネットワークを通じて人材も育ってきているので他府県の専門家にも協力をお願いすることも考えていきたい。

広島大学に対する支援の要望が強いことを改めて認識した。20年度、22年度において委託事業の中で実施した「地域の関係機関における実効性に関する机上訓練（多数傷病者対応訓練）」の訓練未実施府県からの訓練実施についての要望も出ているので今後検討していきたい。

各府県での問題点など地域協議会を通じて討議することで横の連携強化ができ、他府県の良いところを確認、参考にするための場として、この地域協議会は有用であると考えている。西日本ブロックにおける事故発生時の連携強化を目的として、この協議会を継続して実施していくことが大事である。

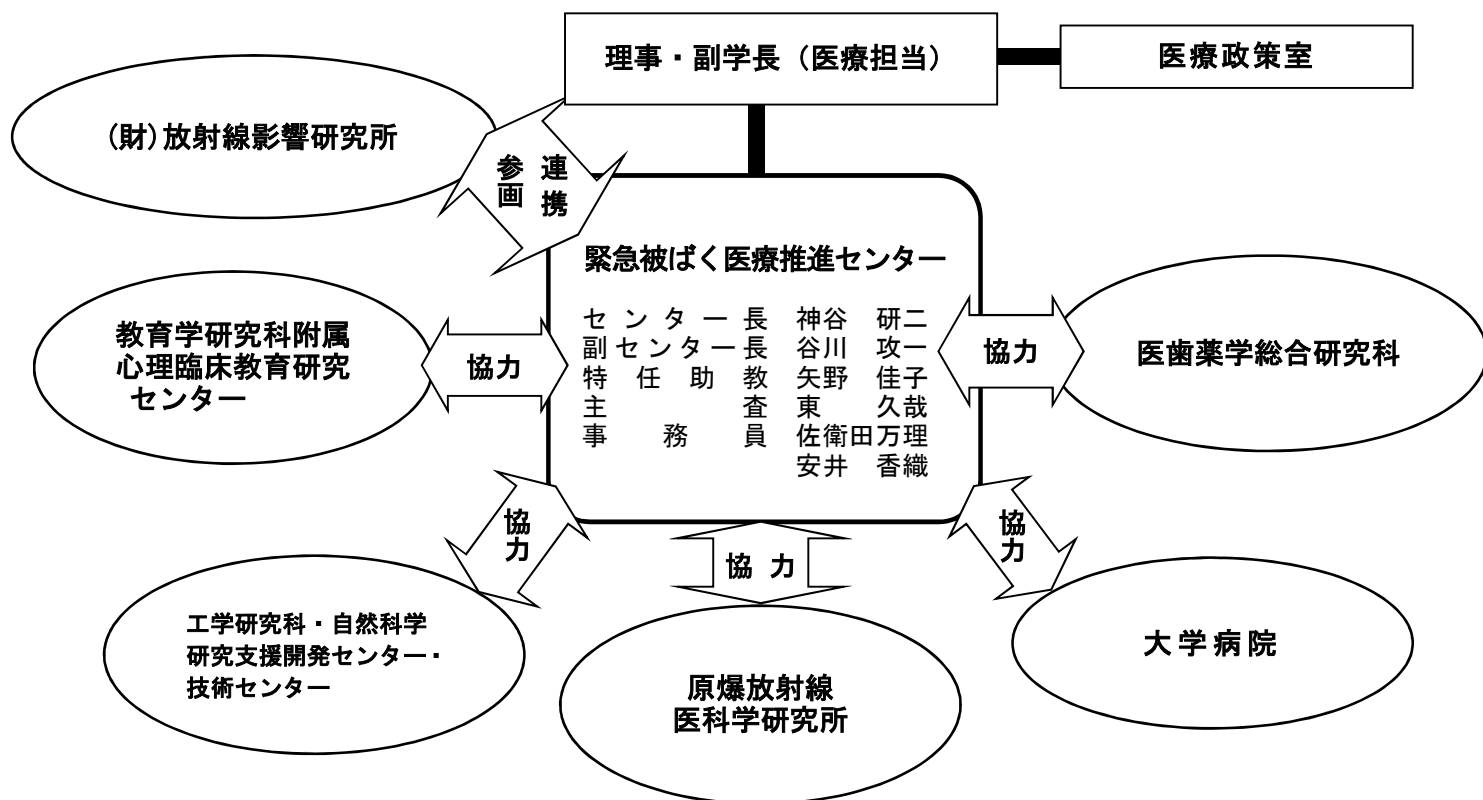
最後に、緊急被ばく医療関係機関の協力体制は、年々と強化されており、関係者の知識・技術も向上している。より実効性のある三次被ばく医療体制の実現に向け、今後も引き続き取り組んでいきたい。

また、東日本大震災の影響により福島第一原子力発電所が被害を受け、複合災害による大量の放射性物質が漏出する重大な放射線災害から2年経った。広島大学は、災害発生直後より西日本ブロックの三次被ばく医療機関として、福島県民の安全・安心を護るために、全国・東日本ブロックの三次被ばく医療機関である放射線医学総合研究所をサポートすべく、専門家派遣チームを現地に派遣し、今も一部で継続している。この原発事故の経験は、今後の緊急被ばく医療体制に大きな教訓を残している。一日も早い事態の収束を願ってやまない。

## 参 考 资 料

## 広島大学緊急被ばく医療推進センター組織図

広島大学は、平成16年9月1日付けで広島大学緊急被ばく医療推進センターを設置し、地域医療との連携体制や病院の経営など、広島大学の医療関連活動全般について担当する医療担当理事の下、委託調査事業を行っている。



（平成25年3月現在）

平成24年度 地域の三次被ばく医療地域協議会出席者 名簿

(平成25年3月現在)

	府県	氏名	所属・職名	
近畿・北陸地区	石川県	山田 哲司	石川県立中央病院長	
		阪上 学	独立行政法人国立病院機構金沢医療センター臨床研究部長	
		新屋 直人	石川県健康福祉部医療対策課主幹	
		山中 小枝子	石川県健康福祉部医療対策課主事	
	福井県	上田 隆夫	福井県立病院 救命救急センター長	
		川村 勝彦	福井県健康福祉部地域医療課企画主査	
	京都府	吉岡 正博	京都府健康福祉部医療課主事	
	大阪府	大西 光雄	大阪大学大学院医学系研究科救急医学講師	
		藤原 英明	大阪府健康医療部保健医療室医療対策課総括主査	
	富山県	岩井 克行	富山県厚生部医務課主任	
	岐阜県	柴田 安寛	岐阜県健康福祉部医療整備課長補佐	
		永田 茂生	岐阜県健康福祉部医療整備課主査	
滋賀県	五十嵐 章和	滋賀県健康福祉部医務薬務課医療整備担当主幹		
中国・四国地区	岡山県	佐藤 利雄	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター副院長	
		万波 拓人	岡山県保健福祉部医療推進課主任	
	鳥取県	平松 俊紀	鳥取大学医学部附属病院救命救急センター講師	
		内田 伸恵	鳥取県立中央病院放射線治療室長	
		笠見 孝徳	鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課課長補佐	
	島根県	橋口 尚幸	島根大学医学部救急医学教授	
		山森 祐治	島根県立中央病院救命救急科部長	
		糸賀 晴樹	島根県健康福祉部医療政策課企画員	
		島田 範明	島根県健康福祉部健康福祉総務課調整監	
	愛媛県	丸山 耕司	島根県健康福祉部医療政策課主任	
		相引 眞幸	愛媛大学大学院医学系研究科救急医学教授	
		藤崎 智明	松山赤十字病院 内科部長	
		濱見 原	愛媛県立中央病院救命救急センター長兼災害医療センター長	
	九州地区	佐賀県	平原 健司	唐津赤十字病院 救急科部長
			阪本 雄一郎	佐賀大学医学部救急医学講座教授
藤田 尚宏			地方独立行政法人佐賀県立病院好生館救命救急センター長	
松永 憲太郎			佐賀県健康福祉本部医務課副主査	
長崎県		宇佐 俊郎	長崎大学病院 永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター 副センター長	
		川良 数行	長崎県福祉保健部医療政策課長	
		庄崎 鉄也	長崎県福祉保健部医療政策課 係長	
鹿児島県		小野原 信一	済生会川内病院 副院長	
		青井 譲	鹿児島県保健福祉部地域医療整備課主査	
福岡県		中村 光宏	福岡県保健医療介護部医療指導課技術主査	
オブザーバー	小野原 真紀	公益財団法人原子力安全研究協会課長補佐		
	松尾 祥子	公益財団法人原子力安全研究協会課長補佐		
	谷田部 浩司	公益財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所		
事務局	神谷 研二	広島大学緊急被ばく医療推進センター長 (原爆放射線医科学研究所所長・教授)		
	谷川 攻一	広島大学病院高度救命救急センター長 (医歯薬学総合研究科 教授)		
	細井 義夫	広島大学原爆放射線医科学研究所 教授		
	矢野 佳子	広島大学緊急被ばく医療推進センター 特任助教		
	林 茂雄	広島大学医療政策室 医療政策グループリーダー		